



脇役

校長 小澤 秋仁

「ドジャース 大谷 世界ー!」

「横浜 DeNA ベイスターズ 日本ー!」

野球にまつわるニュースが飛び交いました。特に日本シリーズを制した横浜 DeNA ベイスターズは、レギュラーシーズンでセリーグ 3 位と振るわずにむしろ脇役。パリーグを制した福岡ソフトバンクホークスは、2 位のファイターズに大差をつけての 1 位ですから、圧倒的な主役でした。クライマックスシリーズ競技方法は賛否両論あるものの、圧倒的な主役を脇役が倒し、日本一を成し遂げたのですから、拍手を贈るべきです。

この大会で輝いた選手にベイスターズの筒香選手がいます。王手をかけた第 5 戦では流れを創り出す場面でヒットを打ち、第 6 戦では優勝を決めるホームランを放ちました。この活躍に日本シリーズの優秀選手賞を受賞しました。かつては、日本代表に選出され世界と闘うなど球界の主役でしたが、メジャーリーグに移籍した 2020 年からの 4 年間、結果を出せずに帰国。今年、ベイスターズへ復帰したものの、活躍できず、試合出場機会の少ない脇役を担っていました。脇役であった筒香選手が日本シリーズで主役の選手以上に活躍し、栄冠を勝ち取ったのです。

優勝後の祝賀会において、ベイスターズ選手達へのインタビューに「休みたい」と回答する姿がありあました。肉体的にも、精神的にも極限の中で 6 試合を闘いました。それでも「諦めない」という想いが、「日本一」を導いたのでしょう。一休みして、また野球界を盛り上げるべく活躍してほしいと願います。

「日本一」「一休み」の二語に、1982 年まで放映された「一休さん」というアニメの「日本一」に関わる放送回をうろ覚えながら思い出しました。このアニメは、毎日様々な難題、トラブル、意地悪などを「とんち」や「知恵」で解決する痛快な物語です。この放送回の冒頭の「都(みやこ)ー」は覚えているのですが、登場する人物と詳細を含めて私の記憶の中で以下のように変換され、上書きされています。(実際の物語とはずれているはずですが、ご容赦ください。)

働き者の都(みやこ)の米問屋が、「都ー」と看板を掲げた。それを見た同じ都に店を構える意地悪な桔梗屋が「京(きょうと)ー」と看板を掲げ対抗した。米問屋は「日本一」と看板を掛けなおす。またまた腹を立てた桔梗屋が「世界一」と看板を掛けなおした。米問屋は、さらに上を考えるのだが名案を思いつかず、一休さんに相談する。

中身を変えることなく看板だけをかけ替えるだけ。こんな見栄だけの世界一などありません。

かつては近寄りがたいと言われていた孤高の筒香選手は、後輩のサポート、相手チームの戦力を分析するなど精力的にチームのために動き、個から全体へと自分の意識を変えていきました。彼の意識の変革はベイスターズを「日本一」に導いた理由のひとつなのでしょう。

脇役というと「バイプレイヤー」という言葉を映画やドラマの世界でよく使います。この度、名バイプレイヤー西田敏行さんが惜しまれて旅立ちました。主役も張れる俳優です。何度も病に倒れ、その度に復活し、バイプレイヤーどころか、俳優、歌手、司会者、ナレーターとマルチに活躍されました。ある番組のインタビューで力強く答えているシーンが私の脳裏に刻まれています。その言葉は、

『西田敏行という人生を 生ききる』

役が替わろうとも、たとえ脇役であろうと、台本を読み込んだ上でさらに人々を楽しませるためにアドリブなどを加えながら全力で取り組む。日本一や世界一ではなく、目の前の役柄に西田敏行史上「一番」すなわち「西田一」を求めているのです。旅立つ数日前の映画の完成披露記者会見では、椅子から立ち上がることはありませんでした。それでも軽妙なトークで会場を盛り上げ、「生ききる」を背中で見せてくれた名優でした。

合掌

米問屋の相談に、一休さんは、再び「都ー」と掲げるよう答えました。その看板をみた桔梗屋はしばし考え、「敵わない」と悔しがります。桔梗屋が世界一を掲げたとしても、その都で一番は働き者の米問屋なのですから。

新生徒会発足

10月24日に、生徒集会を行いました。新生徒会長を筆頭に、各専門委員会の委員長が、所信表明を演説しました。また、中央委員会の議長からも挨拶がありました。生徒会長からは、「みんなをつなぐ生徒会」との決意を聴くことができました。早速、生徒会の企画で、朝の時間を利用して「構成的グループエンカウンター」を計画しているようです。生徒と生徒のつながりを深める企画です。



新生徒会本部役員も前生徒会に続き、月に一度ランチミーティングを行う予定です。どの様な話が飛び出すか、楽しみです。

受験用証明写真撮影

3年生は受験に向けて、証明写真を撮影しました。スナップ写真と異なり、リラックスしすぎても、緊張しすぎてもいけません。程よく力が抜けるべきなのでしょうが、慣れない写真撮影です。硬い表情は新鮮に映りました。



期末考査に向けて

11日から始まる期末考査に向けて、学習に対する熱が入っていました。朝の学習から教室では筆記用具とノートのこすれる音のみが響いています。「期末直前講座」を展開する授業もありました。



ブラインドサッカー体験

11月1日にブラインドサッカーのキーパーでパリパラリンピック日本代表 泉 健也 選手を講師にお迎えして1年生が、ブラインドサッカーを体験しました。パラスポーツ体験を通じて、障がい者を理解し、インクルーシブな感覚を醸成します。アイマスクをして歩く、ボールを追いかける、ボールをキャチ



するなど積み重ねていきました。ボールの中の鈴の音を頼りにボールをコントロールすることが、いかに困難なことが実感することができました。しかし、私たちはアイマスクを取れば、また目の前の景色を見ることができます。ハンディキャップをもつ方々を理解し、共に歩むことに向けて考えることができました。

ビブリオフォーラム

10月19日(土)コロポックルホールにて「清瀬教育の日 ビブリオフォーラム」が行われ、2年生の1名が清瀬中代表として参加しました。

中沢けい著

「楽隊のうさぎ」

吹奏楽部を舞台にした作品を熱く紹介しました。



面接練習

面接練習を開始しています。3年生は、副担任の先生が面接官となって行っています。12月には、校長や副校長が面接官役を担います。一部の3年生は、本番に向けて校長による面接練習を開始しております。すらすらと志望動機や自己PRを語れるよう、事前に練習をしておきたいところです。また、11月5日7日には、英語検定の二次面接対策授業を行いました。面接は、堂々と声を張ることが最低限必要です。

